



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出合いや発見がきっとある



(写真提供 三原和廣氏)

(撮影地 安平町)

目次

●平成27年度「第1回理事会・評議員会開催」……	2	●私の生涯学習……	5
●これからの生涯学習を展望して……	3	●随想30……	6
●わがまちの生涯学習……	4		

平成27年度第1回理事会・評議員会開催

5月26日理事会、6月16日評議員会がそれぞれ開催され、「平成26年度事業報告」、「平成26年度決算報告、監査報告」及び「辞任に伴う監事及び評議員の補充選任（案）」が審議され承認されました。

新旧役員・評議員紹介（平成26年6月以降）

【退任】

副会長 松 藤 藤 吉（北海道公民館協会会長）
 理事 永 井 扶（北海道新聞社事業局事業センター長）
 監事 高 崎 盛 雄（一般社団法人北海道子ども会育成連合会常務理事）
 評議員 矢 上 浩 男（公益財団法人北海道青少年育成協会専務理事兼事務局長）
 〃 瀧 代 春 子（一般社団法人ガールスカウト日本連盟北海道支部副支部長）
 〃 宮 崎 善 昭（北海道YMCA 総主事）
 〃 藤 野 真一郎（北海道社会教育主事協議会監事）

【新任】

副会長 大 島 峰 夫（北海道社会教育委員連絡協議会会長）
 理事 小 川 浩 志（北海道新聞社事業局事業センター長）
 〃 矢 吹 俊 男（北海道公民館協会事務局長）
 監事 木 村 謙 治（一般社団法人北海道子ども会育成連合会事務局長）
 評議員 濱 口 登代喜（公益財団法人北海道青少年育成協会事務局長）
 〃 鈴 木 千恵子（一般社団法人ガールスカウト北海道連盟副連盟長）
 〃 秋 葉 聡 志（北海道YMCA 総主事）
 〃 笹 森 和 宏（北海道社会教育主事協議会監事）

正味財産増減計算書内訳表

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

（単価：円）

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引控除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	53,848	0	53,847	0	107,695
受取会費	644,500	0	644,500	0	1,289,000
事業収益	676,815	0	0	0	676,815
受託事業収益	31,172,760	1,030,000	5,328,000	0	37,530,760
受取補助金等	5,521,000	0	0	0	5,521,000
受取寄付金	100,000	0	100,000	0	200,000
経常収益計	38,168,923	1,030,000	6,126,347	0	45,325,270
(2) 経常費用					
事業費	41,927,585	141,647	0	0	42,069,232
給料手当	19,876,130	20,000	0	0	19,896,130
臨時雇賃金	2,611,563	0	0	0	2,611,563
福利厚生費	3,054,430	1,500	0	0	3,055,930
旅費交通費	1,118,716	0	0	0	1,118,716
通信運搬費	1,756,461	43,070	0	0	1,799,531
消耗品費	2,288,415	10,373	0	0	2,298,788
印刷製本費	4,346,028	0	0	0	4,346,028
賃借料	995,398	33,892	0	0	1,029,290
諸謝金	737,500	0	0	0	737,500
租税公課	383,500	12,400	0	0	395,900
支払負担金	3,919,244	0	0	0	3,919,244
支払助成金	500,000	0	0	0	500,000
委託費	340,200	20,412	0	0	360,612
管理費	0	0	5,434,206	0	5,434,206
給料手当	0	0	4,205,450	0	4,205,450
福利厚生費	0	0	690,946	0	690,946
会議費	0	0	21,370	0	21,370
旅費交通費	0	0	101,142	0	101,142
通信運搬費	0	0	67,352	0	67,352
消耗品費	0	0	73,700	0	73,700
賃借料	0	0	37,644	0	37,644
租税公課	0	0	96,400	0	96,400
支払負担金	0	0	32,716	0	32,716
委託費	0	0	17,388	0	17,388
支払手数料	0	0	1,180	0	1,180
支払利息	0	0	85,541	0	85,541
雑費	0	0	3,377	0	3,377
経常費用計	41,927,585	141,647	5,434,206	0	47,503,438
当期経常増減額	△3,758,662	888,353	692,141	0	△2,178,168
2. 経常外増減の部					
他会計振替額	3,882,281	△888,353	△2,993,928	0	0
当期一般正味財産増減額	123,619	0	△2,301,788	0	△2,178,169
一般正味財産期首残高	△123,619	0	8,611,473	0	8,487,854
一般正味財産期末残高	0	0	6,309,685	0	6,309,685
II 指定正味財産増減の部					
指定正味財産期首残高	0	0	20,000,000	0	20,000,000
指定正味財産期末残高	0	0	20,000,000	0	20,000,000
III 正味財産期末残高	0	0	26,309,685	0	26,309,685

「これからの生涯学習を展望して」

北海道立旭川美術館

館長 菅 沼 肇

「全国生涯学習フェスティバル」が札幌で開催されたのは平成7年のこと。その前年であったと思うが、私は円滑な運営・開催に向け開設された準備室を訪れる機会を得た。

恥ずかしながら、「マナビィ」の存在を知ったのはその時である。担当者がマスコットキャラクターの意味づけを熱く語っている姿は今も覚えているが、どのような話だったかは疾うに忘却している。それなのに「マナビィ」のことを思うとわくわくしてしまう。

なぜなら、「マナビィ」が手にする壺には「自分にとってかけがえのない学びの蜜」がたまり始めており、更に深く、あるいは、より広くしたいと自在に飛び回る様と学び続ける人の姿が重なり合っているのだという私の勝手な解釈が滲出しているからである。

私の中の「マナビィ」が指し示してくれる「学び」は「出会い」と同義なのだ。

様々な出会いは自分を豊かにし、磨かれることを意味する。出会いを通じて知ることとは知的財産を増大させ、発信力を高めることにつながる。私たちは、この知的財産が一定以上の量に達すると自然にメッセージを発する特徴を有するというから、本物に触れる体験を積み重ねていくうちに心奥にある器に感性の水が着実に貯えられ、ついには、縁から溢れ出す時が必ずやってくる。「その時」に至る様相の変化がたまらないのである。

近年、日々の仕事では、とにかくスピード感が求められ立ち止まり振り返ることさえ儘ならない場合が多い中で「自分はこうありたい。」「新たな自分に出会いたい。」と、時間をつくり出し、はつらつとして活動している存在は魅力的であり、眩しくて仕方がない。一方、精一杯の仕事をやり遂げられ悠々の24時間を過ごしておられる方が存分に自分の更なる成長を愉しんでいる姿、これまた、魅惑的に映る。

自分にとってかけがえのないことやものを大切にしながら暮らしを暮らすことこそ、よほど、豊かな学びなのである。

国も道も市町村も「誰もがいつでもどこでも」学ぶことができ、また、学習成果を生かすことのできる社会を目指し相当に力を入れ施策を展開している。つまり、意志が働けば学ぶ場や機会はあるぞということである。

いよいよ、生涯学習における至近距離の課題は、一人一人が「求めるものへ心と体を運ぶこと」「求め続けたいと願う心持ちを自覚すること」になってきたのではないか。

「お出かけ」を億劫に思わない自分が進んで新たな知識に触れたり、自身の経験や想像を超えた世界に身を置いてみたりしながら自己概念を育てていくことが学びの鍵となろう。

いつの時代にあっても「教養」と「教育」が何よりも必要だという。「今日(きょう)用がある」、「今日(きょう)行くところがある」ことが極めて大事という気の利いた洒落話であるが、それは存外、高齢者に限ったことではないと思う。

さあ、心を柔らかかにして心の趣くところへ自力飛行してみよう。

誰かの力に頼っていても何も始まらない。炎天下に冷たいビールが飲みたいと思うとき自らの力でリングブルを引き上げなければ喉に流し込む爽快感は得られないのと同じで、生涯にわたって学び続ける力は、自分の意志と決断、そして実行力が要るのである。

■■■平成27年度情報交流広場(まなびの広場)展示計画(7月以降)■■■

実施期間(予定)	実施団体名	実施期間(予定)	実施団体名
7/8~7/31	(一社) ガールスカウト北海道連盟	11/2~11/16	北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課
8/3~8/28	札幌ユネスコ協会	11/17~11/30	札幌市中央区健康友の会絵画サークルたんぼぼ
9/1~9/15	国立大雪青少年交流の家	12/1~12/22	北海道立特別支援教育センター
9/16~9/30	大学インターネット講座実行委員会	1/5~1/28	(公財)北海道生涯学習協会(かでの講座の歩み)
10/1~10/15	「さっぽろ植物画同好会」かでの教室	2/16~2/29	北海道心の教育推進会議
10/16~10/30	パッチワークキルトもめんオブファミリー	3/1~3/15	写真集団はまなす

わがまちの生涯学習

大空町教育委員会

教育長 渡邊 國夫

道東の空の玄関「女満別空港」を有する大空町は、平成18年に旧女満別町と旧東藻琴村が合併し誕生した人口7,600人の町です。町名は、澄み切った大空、そしてその大空の下に広がる実り豊かな大地のもとで、住民が夢や希望を持ち、晴れ晴れした気持ちで暮らしていくことを目指すものとして命名されました。標高1000メートルの藻琴山をはじめ、網走湖や日本有数の規模を誇る「芝桜」など四季折々の自然豊かな教育環境のもと、本町では、大空町教育の基本理念である「教育の基盤づくり」と「自立と共生」の実現のため、様々な教育施策に取り組んでいます。

■生涯学習は人と人の関わりから

大空町は、本年合併10年となる節目の年を迎えました。これまで、各種行事やイベント等を通して、女満別・東藻琴両地区住民の一体化の醸成が順調に進んでおり、生涯学習が担うべき責務の重要性を改めて感じています。

□わがまちを知る

大空町には、「生涯学習奨励員協議会」という生涯学習を推進するための町民主体の活動組織があり、成人大学講座などの企画運営のほか、一昨年からは、町のことをもっと町民が知り、町民の交流を一層深めることを目的として「大空町検定」事業に取り組んでいます。合併前の旧町村の歴史や文化などを生涯学習奨励員自らが学ぶことで、仲間意識や相互理解が深まり、まさに本町の生涯学習推進の原動力となってくれています。また、「大空町検定」に臨んだ多くの町民が、ふるさと大空町の魅力を再発見できたことは、言うまでもありません。

□若い力がまちを活性化する

未来を担う青年の組織が町内には数多くありますが、個別の活動に留まっているのが現状でした。青年団体同士の交流をさらに深め、より強固な組織となることを目的として「青年団体連携会議」が立ち上がりました。青年たちがより緊密な関係に発展したことで「まちづくり」を意識した事業に積極的に挑戦してくれるようになり、異業種交流事業「大空 Young Young (ヤンヤン)」では、100人を超える交流会を実現したほか、町民への芸術鑑賞の機会としてコンサートを企画開催するなど、地域の活性化に大いに貢献してくれています。



大空ヤンヤンで集まった町内の青年たち。町の施設見学を行っている様子

□個性あふれる図書館活動

大空町には、JRの駅舎との複合施設である、ユニークな図書館があります。図書館では、町民の知識や教養を高めるだけでなく、地域の人々がつながる活動に力をいれています。児童生徒の文学作品コンクールの実施をはじめ、文章教室の成果をエッセイ集としてまとめるなど図書館活動による町民相互の融和が広がっています。また、町内各学校を巡回する学校図書館司書の配置や図書館と学校間におけるコンピュータのネットワーク化により、子どもたちの読書環境の充実が図られています。

これまでの人と人との関わりというものを通して、大空町の教育の土台が出来上がりつつあることを実感しています。変化の激しい時代にあって、生涯学習の在り方も住民が必要とするものや住民に求められるものに変容を遂げなくてはならないと思っています。

生きる上での実践的な力を養う学びへと軸足を移し、住民が不安なく充実した生活を過ごせるよう、新たな生涯学習環境の整備が急務であると考えています。

これからも、町名の由来である「住民が夢や希望を持ち、晴れ晴れした気持ちで暮らせるまち」を目指し、生きる力となる生涯学習を推進していきたいと考えています。

私の生涯学習

写真集団 はまなす会長

道民カレッジ生 経塚剛敏

生涯学習と言えるかどうか、私は、写真を趣味にして約50年になります。1970年大阪万国博覧会に行く機会に恵まれ、カメラを新調したのがきっかけになりました。帰宅後、復命書に写真を使用したり、各種の報告書等その活用が幅広く利用できて、また、数年後に再確認が出来る等、写真による記録の大切さを知りました。

趣味の世界では、日曜日には、カメラを持って近隣を歩き回りシャッターを切りました。当時、私は、留萌市港町に住んでおりました関係から港・黄金岬・瀬越浜のコースが主でありました。港や海に働く人々・夕陽やけあらしの海・吹雪の浜等々撮影の材料は限り無く、それぞれに出会いがあり、また、写真仲間が来て写真を趣味にして、本当に良かったと思っています。

2012年、北海道西海岸の漁村の生活・風土をテーマとして、1970年から撮影した写真を纏めて、写真集「北の浜村」を(株)日本写真企画から出版しました。また、併せて、個展を銀座・札幌市・写真の町東川・石狩市・留萌市・増毛町と開催させて頂きました。この個展では、プロ写真家の方々や編集者や写真仲間等多くの方々との出会いがあり、最高の思い出となって今日の写真活動の原動力になっています。

写真は、自分自身の満足感ばかりではなく、他の人々に生きる喜びや感動を与える作品づくりが、写真を撮る者の目指す目標と考えています。

私が写真を始めた頃は、銀塩モノクロフィルムが全盛期で撮影技術の外にフィルム現像やプリント現像等暗室技術が重要でした。従って、自己流では、写真の技術を取得するには短期間では困難で、私は地元の写真クラブに入会して、会長さんや先輩から、現像など暗室技術の指導を頂き、自分の全国レベルの確認と技術向上を図るため、全国カメラ誌のアサヒカメラ・日本カメラ・フォトコン等の月例コンテストに挑戦しました。最初は、なかなか入賞できませんでしたが、札幌に来てから少しずつ入賞でき著名のプロ写真家から比評していただき、1997年にはアサヒカメラ組写真の部で年度賞次点(全国4位)を受賞することができました。これは、根気よく写真を長い間続けて行くには写真仲間が必要で1986年12月に北海道の花をクラブ名に頂き「写真集団はまなす」を結成し、その後写真が好きな方であればどなたでも入会できるクラブとして現在も共に活動を続けていますが、この写真仲間の応援が力になりました。

近年、写真の機材や撮影環境が大きく変化してきており、長い間のフィルム時代の経験は、特に暗室での技術等は、今は必要ありませんし、撮影にもカラーやモノクロのフィルムを数本持ち歩く必要もありません。代わりにこれからは、画像処理にパソコン技術が撮影と共に重要な技術に成るでしょう。

デジタルカメラは、年々進化し、今では5060万画素のカメラが出現する等、また、スマートホン等色々のものにカメラ機能が付くなど、今後も更に広がり画像の微細化等の進化が進むことでしょう。

しかし、撮影機材等が如何に進化されても、人間が撮影する以上、何を撮ったのか、何を感じたのか等々、撮影者の意図や技術がどう見る者に感動を与えることが出来るかが、私達が探求し続ける世界なのです。

あまり新しい機材等に左右されず、自分の考えていることを見つめて良い作品作りに努力し、見る方々に作品の撮影意図や感動が伝わり互いにその喜びを分かち合うことが出来れば最高に幸せでありましょう。

そんな意味では、良い作品をつくるには、高い教養があることに越したことは無く常に学びが大切であります。2005年11月に道民カレッジ生になりまた、2008年6月には地元のいしかり市民カレッジ生となりました。昨年9月にブロンズ(30回受講)修了証を頂きました。今後も体調管理に気を配りながら継続して学んで行きたいと考えています。学びと趣味の写真は、私の生きがいとして、一生続けて行くことになるでしょう。

随想30

クマとイルカの話

近年、札幌の南区などでクマが人家に近いところに頻繁に出没してくるという物騒な話が報道されたのは、まだ記憶に新しいと思う。また、知床半島などで鮭をめぐる人と共存しているというクマの姿が映像で流されたりもしている。そんな最近のクマの姿がはたして正しい生き方なのであろうかと、ふと疑問に思うことがある。

2003年の羅臼町での出来事。民家にクマが侵入した。一階にいたお婆さんは隣の台所で音がするのを察知し、とっさにクマだと気づき、二階の夫婦が寝ていたところに逃げた。クマは冷蔵庫を漁っていたが、人的な被害は幸い無かった。朝までクマが去るのを待っていたという。このような話には尾ひれがつくものである。冷蔵庫の中にあつたお酒を飲んだと報道されたが、二級酒には手をつけず一級酒を飲んだという噂。日本酒級別制度は1990年に廃止されているので、おそらく作られた話であろうが、嘘のような別な話もある。

それは、羅臼町の番屋での出来事として漁師さんから聞いた話である。鮭漁シーズンのための食糧などを番屋に保管しておいたところ、クマが侵入し、食べ物を漁った痕跡があつたが、ジュースの缶には手をつけず、コココーラの缶だけに爪痕を残して飲んでいたという。クマにも嗜好がある

という話になるが、これも人との出会いの多さによる後天的な学習で、本来の姿ではなかろう。

北海道のクマ被害でもっとも著名なのは、苫前村の三毛別（さんけべつ）での惨劇であろう。1915年（大正4）12月のこと。民家を襲ったクマが開拓民7名を殺し、3名が重傷を負い、射殺された。340kg、体長2.7mであつたという。この事件以来、クマはすっかり悪者にされてしまった感がある。

閑話休題。テレビで見た動物との共存の話。ミャンマーのイェーラワディー川でカワゴンドウというイルカと人間との共同漁である。魚漁のスタートの合図はボートの船べりを叩いて4、5頭のイルカを呼ぶことから始まる。イルカが魚を追い込んでボートの方にやってきて、イルカは投網のチャンスをヒレ叩きで合図する。その時、網から落ちこぼれる魚をイルカがゲットする共存形態である。この漁は先祖代々続いているというので、イルカの側でもそのやりかたを伝承しているということになる。

クマも学習しているらしいが、イルカの学習はもっとすごいと思う。動物との共存にはいろいろ考えさせられるものがある。

(公財) 北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

新入会員紹介(敬称略)

次に方々が新たに賛助会員になられました。
今後ともよろしくお願いいたします。

福田 寿子 傳 寶 博 愛
宇 田 賢 治

事務局からのお知らせ

●生涯学習協会賛助会員募集

賛助会費：個人会員～1口 3,000円
 団体会員～1口 10,000円
(個人・団体何口でも可)

会員の方には、会報「ほっかいどう生涯学習(年4回発行)」を送付させていただくほか、「かでの講座」の優待券(2回無料)と400円での受講(通常500円)ができます。

また、賛助会費(寄附金)は、税制上の優遇措置を受けられますので、詳しくはHP(ホームページ)をご覧ください。

編集後記

道端の草花が芽吹き、春を彩る鮮やかな色彩の花や可憐な花、透きとおるように美しい新緑の木々、1年で一番爽やかな季節も過ぎ去り、今は、日射しも熱くなり木陰を通り過ぎる風が心地よい日和となりました。

当協会におきましては、長年ご尽力いただいた多くの役員の方々が退任され、また新たに多くの方々に役員に就任いただきご尽力頂くこととなりました。願わくは、退任された役員の皆様にも、それぞれのお立場

で引き続き当協会に対しましてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年度の事業も順調に進んでおり、特に「かでの講座」は多くの参加をいただき毎回盛会となっております。道民の皆様様の旺盛な学習意欲に負けないよう、当協会職員も一生懸命努めてまいりますので、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。